

能越自動車道関連 埋蔵文化財包蔵地調査報告

中尾埋蔵文化財包蔵推定地
NEJ-22(大野中遺跡)
NEJ-23(七分一堂口遺跡)
NEJ-24(加納谷内遺跡)
NEJ-25(稲積天坂遺跡)
NEJ-27(宇波西遺跡)
NEJ-29

2005年3月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所

序

能越自動車道（一般国道470号）は、富山県西部と石川県能登半島地域の高速交通体系の確立や沿線地域の活性化を目指し、北陸自動車道小矢部砺波JCTから高岡市、氷見市を通り、石川県輪島市に至る路線として計画されました。

当調査事務所では、この能越自動車道建設計画に伴い、平成4年度から発掘調査及び遺物整理の事業を実施しております。今年度までに五社遺跡、開辟大滝遺跡、地崎遺跡（小矢部市）、石名田木舟遺跡（小矢部市・福岡町）、蓑島遺跡、江尻遺跡（福岡町）、下老子笠川遺跡（福岡町・高岡市）、近世北陸道遺跡、手洗野赤浦遺跡、岩坪岡田島遺跡、板屋谷内B・C古墳群、堂前遺跡（高岡市）、惣領野際遺跡、惣領浦之前遺跡、上久津呂中屋遺跡、中谷内遺跡、中尾茅戸遺跡、中尾新保谷内遺跡、神明北遺跡、大野江淵遺跡（氷見市）の発掘調査を行いました。

本書は、能越自動車道高岡北IC～氷見ICに所在する中尾埋蔵文化財包蔵推定地（氷見市中尾）及び、氷見IC～灘浦IC間に所在するNEJ-22（氷見市大野）、NEJ-23（氷見市七分一）、NEJ-24（氷見市加納）、NEJ-25（氷見市稲積）、NEJ-27（氷見市宇波）、NEJ-29（氷見市宇波）における埋蔵文化財包蔵地の範囲や遺存状態を把握するために実施した包蔵地確認調査の結果をまとめたものです。

その結果、路線内で、大野中遺跡（NEJ-22）、七分一堂口遺跡（NEJ-23）、加納谷内遺跡（NEJ-24）、稲積天坂遺跡（NEJ-25）、宇波西遺跡（NEJ-27）を確認しました。これら調査の成果が、今後の遺跡調査や研究等の一助となれば幸いです。

最後に、今回の調査にあたって格別の御協力と御配慮を頂いた関係各位に深く感謝申し上げます。

平成17年3月

財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
所長 桃野 真晃

例　言

1 本書は平成16年度に氷見市中尾地内、大野地内、七分一地内、加納地内、稻穂地内、宇波地内の能越自動車道建設予定地で実施した埋蔵文化財包蔵地の調査報告書である。

2 調査は富山県教育委員会の決定に基づき、財団法人富山県文化振興財団が国土交通省からの委託を受けて実施した。

3 調査は財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所が実施し、調査第一課長 狩野 瞳が総括した。調査員は次の通りである。

中尾埋蔵文化財包蔵推定地…文化財保護主事 野口雅美・朝田 要 埋蔵文化財技師 泉 英樹
NEJ-22…文化財保護主事 野口雅美・杉山大晋・西川麻野

NEJ-23…主任 越前慎子 文化財保護主事 野口雅美・朝田 要・西川麻野・杉山大晋

NEJ-24…文化財保護主事 青山 晃・野口雅美・糸江真理・杉山大晋・西川麻野・埋蔵文化
財技師 藤本信幸・泉 英樹

NEJ-25…主任 岡本淳一郎 文化財保護主事 中野由紀子 埋蔵文化財技師 藤本信幸

NEJ-27…主任 越前慎子 文化財保護主事 野口雅美・朝田 要

NEJ-29…主任 岡本淳一郎 文化財保護主事 中野由紀子 埋蔵文化財技師 藤本信幸

4 発掘調査・資料整理・本書の作成にあたっては、下記の方々から御教示を頂いた。記して深甚なる謝意を表したい。(敬称略・五十音順)

大高崎泰明・廣瀬直樹

5 本書の編集は青山が担当した。執筆分担については各文末に記した。

6 トレースは、青山・中野・野口・朝田・藤本が行った。

7 遺物の写真撮影は、調査第一課長 狩野 瞳が行った。

8 山上遺物及び記録資料は、当埋蔵文化財調査事務所が一括して保管している。

9 トレンチ一覧表には各層から出土した遺物の略号を記し、土層自体を検出していない場合は一で示した。出土遺物の略号は次の通りである。

縄土=縄文土器 土師=土師器 須恵=須恵器 中土=中世土師器 越瀬=越中瀬戸 伊万=伊万里

目　次

序

例言・日次

I 位置と環境	1
1 位置と地形	1
2 周辺の遺跡	1
II 調査の経緯	3
1 調査の契機と既往の調査	3
2 調査に至るまで	3
III 調査の概要	4
1 中尾埋蔵文化財包蔵推定地	4
2 NEJ-22	6
3 NEJ-23	8
4 NEJ-24	11
5 NEJ-25	14
6 NEJ-27	17
7 NEJ-29	19
IV 小括	21
引用参考文献	23

図目次

第1図	調査地の位置	1
第2図	能越自動車道路線内の埋蔵文化財包蔵地と周辺の遺跡	2
第3図	中尾埋蔵文化財包蔵推定地トレンチ位置図	5
第4図	NE J-22 トレンチ位置図	7
第5図	NE J-23 トレンチ位置図（1）	9
第6図	NE J-23 トレンチ位置図（2）	10
第7図	NE J-24 トレンチ位置図（1）	12
第8図	NE J-24 トレンチ位置図（2）	13
第9図	NE J-25 トレンチ位置図	16
第10図	NE J-27 トレンチ位置図	18
第11図	NE J-29 トレンチ位置図	20
第12図	今回の調査により新たに確認された遺跡の位置	22

表目次

第1表	既往の調査一覧	3
第2表	中尾埋蔵文化財包蔵推定地トレンチ一覧	4
第3表	NE J-22 トレンチ一覧	7
第4表	NE J-23 トレンチ一覧	8
第5表	NE J-24 トレンチ一覧	11
第6表	NE J-25 トレンチ一覧	15
第7表	NE J-27 トレンチ一覧	17
第8表	NE J-29 トレンチ一覧	19
第9表	平成16年度埋蔵文化財包蔵地調査結果一覧	21

写真図版

図版1	NE J-22・23・24・25 航空写真	24
図版2	NE J-27・29 航空写真	25
図版3	中尾埋蔵文化財包蔵推定地・NE J-22	26
図版4	NE J-23	27
図版5	NE J-24	28
図版6	NE J-24・NE J-24 出土遺物	29
図版7	NE J-25	30
図版8	NE J-25 出土遺物・NE J-27 出土遺物	31
図版9	NE J-27・NE J-29	32

I 位置と環境

1 位置と地形（第1図）

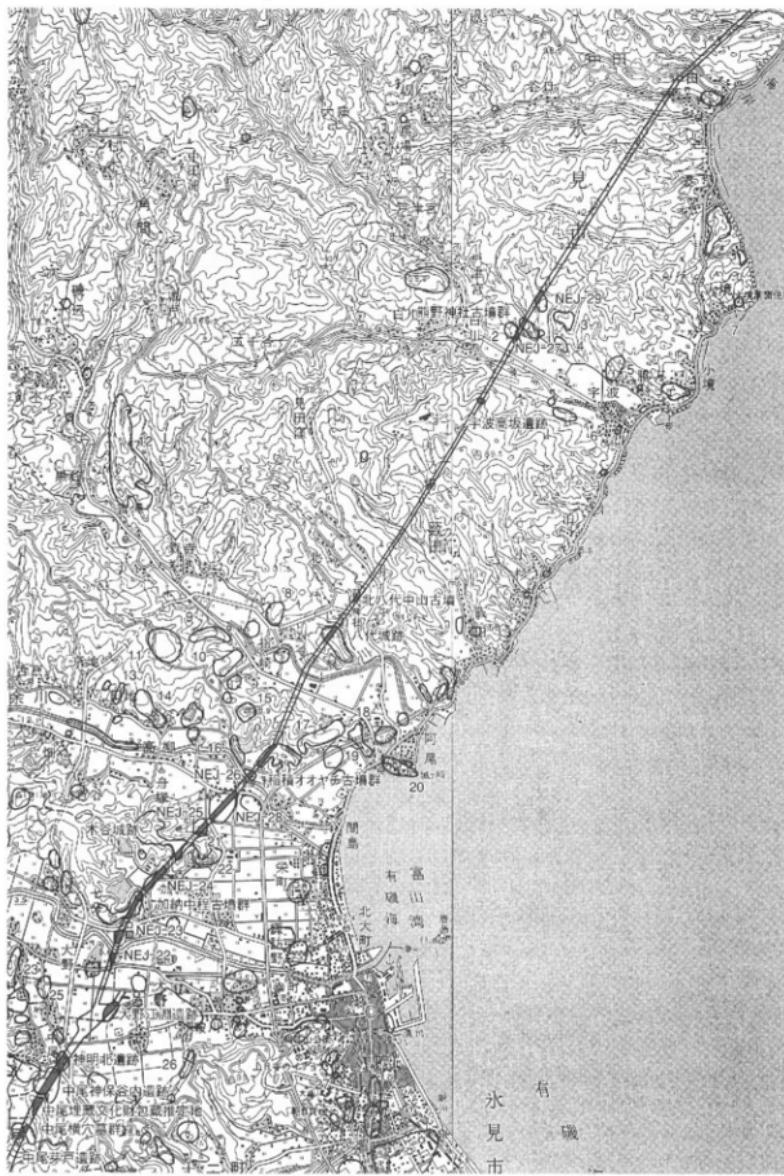
氷見市は富山県北西部にあり、能登半島の基部に位置している。三方を石動丘陵・宝達丘陵・二上山丘陵に囲まれ、東は富山湾に面している。市域の約8割を占める丘陵は、河川によって開析され、小丘陵が派生する。これらの丘陵間には沖積平野が形成されており、特に仏生寺川・上庄川流域の平野が広い。ただし、仏生寺川下流域には「布施水海」と呼ばれる湯がかつては存在した。現在では「十二町湯」と称されるそれは、近世以降の干拓により縮小している。これに対し、余川より北側の河川により開析された平野は狭い。そのため、丘陵地の占める割合が多くなる。能越自動車道建設予定地は氷見インターチェンジ以北では、こうした丘陵地を中心に、時折平野部を北北東に継続しつつ、県境となる氷見市脇まで続く。今年度に包蔵地確認調査を行った埋蔵文化財包蔵地では、中尾埋蔵文化財包蔵推定地が丘陵の尾根上に位置する以外は、河川の周辺や丘陵間の平野に位置している。NEJ-22・23は上庄川のそれぞれ右岸と左岸の平野部に位置している。NEJ-24は上庄川と余川の間にある丘陵地に狭く入り込む平野部に、NEJ-25は余川右岸の平野部に位置している。NEJ-27・29は宇波川左岸の平野部にある。ただし、NEJ-24・27・29では、埋蔵文化財包蔵地が丘陵標部にまで広がっており、調査地は傾斜地も含まれている。

2 周辺の遺跡（第2図）

中尾埋蔵文化財包蔵推定地周辺では中尾茅戸遺跡・中尾新保谷内遺跡・神明北遺跡・大野江瀬遺跡の本調査が当事務所により行われている。古墳時代～近世の長期に渡って集落跡が確認されているが、主体となるのは中世である。また、北側には金銅宝冠阿弥陀如来座像が出土した泉中尾廬寺跡がある。これらの遺跡の所在する中尾や大野周辺を含めた上庄川流域は、古代においては「阿努郷」、中世では「阿努庄」の領域と比定されている。NEJ-22とNEJ-23は上庄川を挟んで対峙する位置にあり、NEJ-23の北側は丘陵地となっている。その丘陵上には加納中程古墳群があり、6基の円墳が確認されている。加納中程古墳群の北側は、狭小な平野を挟んで加納蛭子山古墳群（21）・加納横穴群（22）・木谷城がある丘陵へと続く。この狭小な平野にNEJ-24が、木谷城北側の平野部にはNEJ-25が位置している。NEJ-25の北側には、NEJ-28があり、さらに余川を挟んでNEJ-26が確認されている。NEJ-26・28については、今年度は調査に至っていない。NEJ-26北側は丘陵地となり、稲積オオヤチ古墳群・阿尾鳥田古墳群（17）・稲積城跡（15）が位置している。NEJ-27は主に古代の遺物が出土している宇波西遺跡（2）と接している。また、NEJ-27・29が位置する宇波川左岸川の丘陵には宇波安居寺古墳群（4）・脇方西古墳群（5）・熊野神社古墳群や宇波城跡（3）などが確認されている。



第1図 調査地の位置



第2図 能越自動車道路線内の埋蔵文化財包蔵地と周辺の遺跡（1：50,000）

- 1.白河城跡 2.宇治川造堤 3.宇治城跡 4.平定安房守護碑群 5.駿河高井陣屋群 6.宇治吉備 7.大和御住尾瀬 8.播磨御城跡 9.指輪大谷古跡群
10.山陰向山古跡群
11.阿波島古田城跡
12.高麗島山城跡

II 調査の経緯

1 調査の契機と既往の調査 (第1表)

能越自動車道は、富山県西部・能登地域の高速交通体系の確立及び地域活性化のため昭和62年の高規格幹線道路計画の一環として、石川県輪島市から富山県砺波市に至る延長約100kmの自動車専用道路として計画された。平成2年にはこの工事計画を受け、国土交通省(以下、国土省)・富山県工事事務所(現富山河川国道事務所)・県教育委員会(以下、県教委)・小矢部市教育委員会で協議が行われ、小矢部市域の分布調査を行うことが決定した。また、平成4年からは当財団が国土省から委託を受け発掘調査を実施している。これ以降、能越自動車道関連の調査は、分布調査を県教委、確認調査・本調査を地元市教育委員会及び当財団が主体となり実施されている。

2 調査に至るまで

平成14年度に県教委によって能越自動車道木見IC～灘浦IC間の分布調査が行われた。NEJ-22～27の埋蔵文化財包蔵地6ヶ所と周知の遺跡5ヶ所の範囲を再確認する結果となった。

平成16年度に県教委によって能越自動車道建設予定地内の稲積・宇波・姿～県境での分布調査が行われ、NEJ-28～30の埋蔵文化財包蔵地3ヶ所と埋蔵文化財包蔵推定地2ヶ所を確認した。

平成16年4月16日、県庁において国土省・県文化財課・財団で協議が行われ、NEJ-22・23・24の埋蔵文化財包蔵地調査が財団に委託されることとなった。これを受け、財団はNEJ-22・23・24・25の包蔵地調査を5月25日から6月4日まで行った。

平成16年9月30日、県庁において国土省・県文化財課・財団の協議が行われ、財団からNEJ-22・23・24の調査結果が報告された。NEJ-22では南側で遺構・遺物が確認されたことから、さらに南に遺跡の範囲が広がる可能性を示した。今後、南側の未買収地も調査が必要であることを報告した。NEJ-23では調査対象地の北側の丘陵部分も調査が必要であること、NEJ-24は遺跡範囲が北側に広がることが報告された。また、中尾埋蔵文化財包蔵推定地・NEJ-23北側部分・NEJ-25・27・29の埋蔵文化財包蔵地調査が財団に委託されることとなった。これを受け、財団は中尾埋蔵文化財包蔵推定地を11月18日から19日、NEJ-23を12月9日～10日、NEJ-25を12月6日～9日、NEJ-27を11月29日から12月6日、NEJ-29を11月29日から12月3日まで調査した。

(青山 晃)

年度	調査対象地	調査種類	調査主体	調査面積(m ²)	調査期間	調査結果	
						新規	既存
平成14	木見(C～著浦)C	分布調査	県教委	106,600(延縦内包蔵地面積)	3/18～19	周知の5遺跡を再確認、新規の埋蔵文化財包蔵地を6箇所確認	
	中尾新保谷内遺跡	本発掘	財 団	7,415	5/7～10/3	古代・中世の集落を調査	
	中尾新保谷遺跡	本発掘	財 団	1,361	6/23～11/18	古墳時代・古代の集落を調査	
	中の野遺跡	本発掘	財 団	11,729(延縦内包蔵地)	5/26～12/25	古墳時代・古代の自然流路・中世の集落を調査	
	上久保谷中尾遺跡	本発掘	財 团	1,020	11/3～12/16	弥生時代・古代・中世の集落を調査	
	中尾新保谷遺跡	本発掘	財 团	9,803(延縦19,816)	5/27～12/24	古墳時代・中世の集落を調査	
	鬼塚之前田遺跡	本発掘	財 团	7,268(延縦13,378)	5/27～11/1	弥生時代・古墳時代～中世の集落を調査	
	鬼塚人遺跡	本発掘	県教委	500	6/12～8/8	古代・中世の遺構・遺物を確認	
	正保谷人遺跡	本発掘	県教委	1,050	9/9～12/25	魏晉・中世の遺構・遺物を確認	
	NEJ-1a	包蔵地確認調査	財 団	1,492(対象26,555)	5/9～10/4	上久保谷中尾遺跡を設定	
	板屋谷内古墳群	包蔵地確認調査	財 団	279(対象13,200)	11/1～12/2	古墳2基を再確認	
	板屋谷内古墳群	包蔵地確認調査	財 団	279(対象13,200)	11/1～12/2	古墳2基を再確認し、新たな古墳を1基確認	
	黒川人遺跡	包蔵地確認調査	県教委	289(対象8,000)	5/29～6/2	古代・中世の遺構・弥生・古代・中世・近世の遺物を確認	
	福地・宇波～偏境	分布調査	県教委	53,500(路側内包蔵地面積)	3/22	新規の埋蔵文化財包蔵地を3箇所確認	
	板屋谷内古墳群	本発掘	財 団	4,465	6/7～12/5	2箇所の古墳を調査	
	板屋谷内古墳群	本発掘	財 団	4,417	6/7～12/5	5箇所の古墳を調査	
	上久保谷中尾遺跡	本発掘	財 団	14,169(延縦17,490)	5/27～12/14	魏晉時代の自然流路・弥生時代・中世の集落を調査	
	中の野遺跡	本発掘	財 团	16,196(延縦26,429)	5/27～12/17	古墳時代・古代・中世の集落を調査	
	中尾新保谷内遺跡	本発掘	財 团	2,352(延縦2,839)	5/25～12/9	中世の集落を調査	
	大野人遺跡	本発掘	財 团	12,229	5/27～11/1	中世の集落を調査	
	黒川人遺跡	本発掘	県教委	1,230	9/6～12/17	古代・近世の遺構・遺物を確認	
	正保谷遺跡	本発掘	県教委	1,500	6/1～9/7	古代・中世の遺構・遺物を確認	

第1表 既往の調査一覧

※平成14年度以前における分布調査以外の本調査・包蔵地確認調査については、財團法人富山県文化振興財团1999-2001-2002-2003-2004「能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地調査報告書」を参考にされた。

III 調査の概要

1 中尾埋蔵文化財包蔵推定地

(1) 調査対象地

中尾埋蔵文化財包蔵推定地は、中尾山の尾根上に位置し、北は中尾新保谷内遺跡に接する。現況は山林であり、標高は調査対象地内の最も高い所で51.9mを測る。尾根は非常にやせており、西側の斜面は急峻である。

(2) 調査の方法（第3図）

幅0.8m、長さ3~30mのトレンチ（表中Tとする）を9ヶ所設定し、人力による掘削、遺構及び土層断面の検出を行った。調査対象面積は16,200m²、調査面積は109m²である。

(3) 基本層序

I層	表土	黒褐色粘土
II層	地山	にぶい黄褐色粘土／岩盤

(4) 調査の状況（第3図、第2表、図版3）

周辺の丘陵上に古墳群が点在するため、古墳の検出を目的として尾根上、または斜面途中の平坦面にトレンチを設定した。いずれのトレンチでも地山の上に表土が堆積するのみで、包含層や遺構は確認できなかった。

(5) 出土遺物

遺物は出土していない。

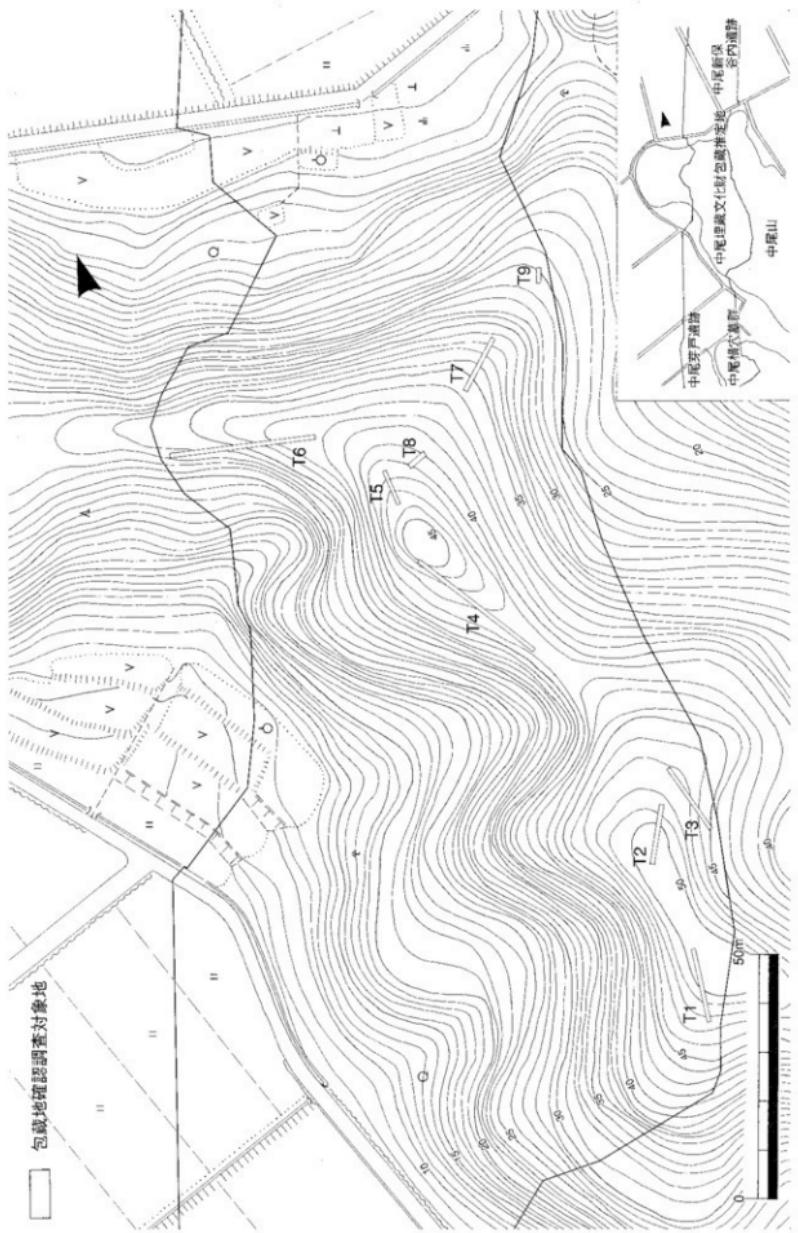
(6) 調査の結果

今回調査を行った範囲では、遺跡は確認されなかった。

（野口雅美）

トレンチ番号	全長(m)	遺構面深度(m)	I層	II層	遺構
T1	15	0.2			—
T2	12	0.4			—
T3	15	0.3			—
T4	30	0.3			—
T5	8	0.3			—
T6	30	0.4			—
T7	12	0.2			—
T8	5	0.2			—
T9	3	0.2			—

第2表 中尾埋蔵文化財包蔵地推定地トレンチ一覧



2 N E J - 22 (大野中遺跡)

(1) 調査対象地 (図版1)

N E J - 22埋蔵文化財包蔵地は、上庄川右岸に位置し、北端を川に接する。上庄川を挟んだ北側はN E J - 23埋蔵文化財包蔵地となっている。現況は水田であり、標高は4.9~5.1mを測る。北に向かって僅かに低くなる地形である。

(2) 調査の方法 (第4図)

幅1.6m、長さ20~35mのトレンチを（以下Tとする）4ヶ所設定し、重機による掘削を行い、人力で遺構面及び土層断面の検出を行った。調査対象面積は1,800m²、調査面積は184m²である。

(3) 基本層序

I層	表土	黄灰色シルト
II層		灰色粘土
III層		黄灰色粘土
IV層	古代包含層 (10~30cm)	オリーブ褐色粘土
V層	地山	黄褐色粘土

(4) 調査の状況 (第4図、第3表、図版3)

調査対象地の北半部に位置するT 1・2は上庄川に落ちる谷地形の中にあり、表土を取り除くと谷の埋土と思われるオリーブ黒色シルトが現れ遺構は見られなかった。南半部のT 3・4では遺物包含層と遺構検出面を確認した。特に、T 4では穴を検出し、遺物の出土もT 1~4の中で最も多かった。

(5) 出土遺物

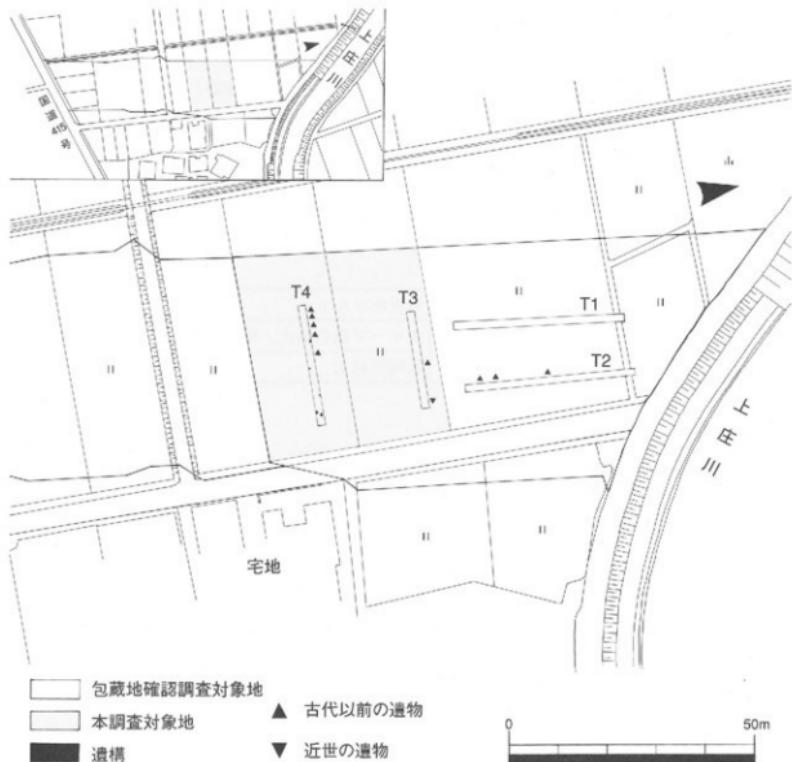
遺物は、土師器・須恵器・越中瀬戸・銅錢（寛永通寶）が出土した。

主にT 3・4から古代を中心とした遺物が出土しているが、土師器は遺存状態が悪く小破片であるため器種・時期等が判別できない。須恵器は甕の体部・杯身・杯蓋などが出土している。

(6) 調査の結果

調査対象地の内、北側のT 1・2は川に向かって落ちる谷地形の中と考えられ、遺跡の範囲外とする。南側のT 3・4において、包含層・遺構が確認され、特に南端のT 4に遺構が集中して見られた。このことから、遺跡の中心地が調査対象地の南に存在し、遺跡範囲が南へ延びる可能性が考えられる。しかし、南に隣接する水田は調査対象地外で未買収であったため、今年度未調査である。遺跡の名称は、付近の字名から「大野中遺跡」とする。現時点での本調査対象面積は、1,530m²である。

(野口雅美)



第4図 NEJ-22 ドレンチ位置図 (1:1,000)

ドレンチ番号	全長(m)	遺構面深度(m)	I層	II層	III層	IV層	V層	遺構
T1	35	—				—	—	—
T2	35	—	土師	土師	須恵	—	—	—
T3	20	0.9	越瀬		土師			
T4	25	0.9		土師・須恵	須恵	土師・須恵		穴5

第3表 NEJ-22 埋蔵文化財包蔵地ドレンチ一覧

3 NEJ-23 (七分一堂口遺跡)

(1) 調査対象地 (図版1)

調査対象地は上庄川左岸に位置し、北端を丘陵に接する。この丘陵上には加納中程古墳群が存在する。上庄川を挟んで南側には、NEJ-22埋蔵文化財包蔵地（大野中遺跡）がある。県道柿谷池田線から南の現況は水田で、標高は3.09～5.34mを測る。南側の川へ向かって傾斜する地形である。県道から北は加納中程古墳群のある丘陵の裾野部分で、現況は畑地。標高は5.5～9.44mを測る。

(2) 調査の方法 (第5図)

幅1.6m、長さ10～35mのトレンチ（以下Tとする）を18ヶ所設定し、重機による掘削を行い、人力で遺構面及び土層断面の検出を行った。調査対象面積は12,470m²、調査面積は630m²である。

(3) 基本層序

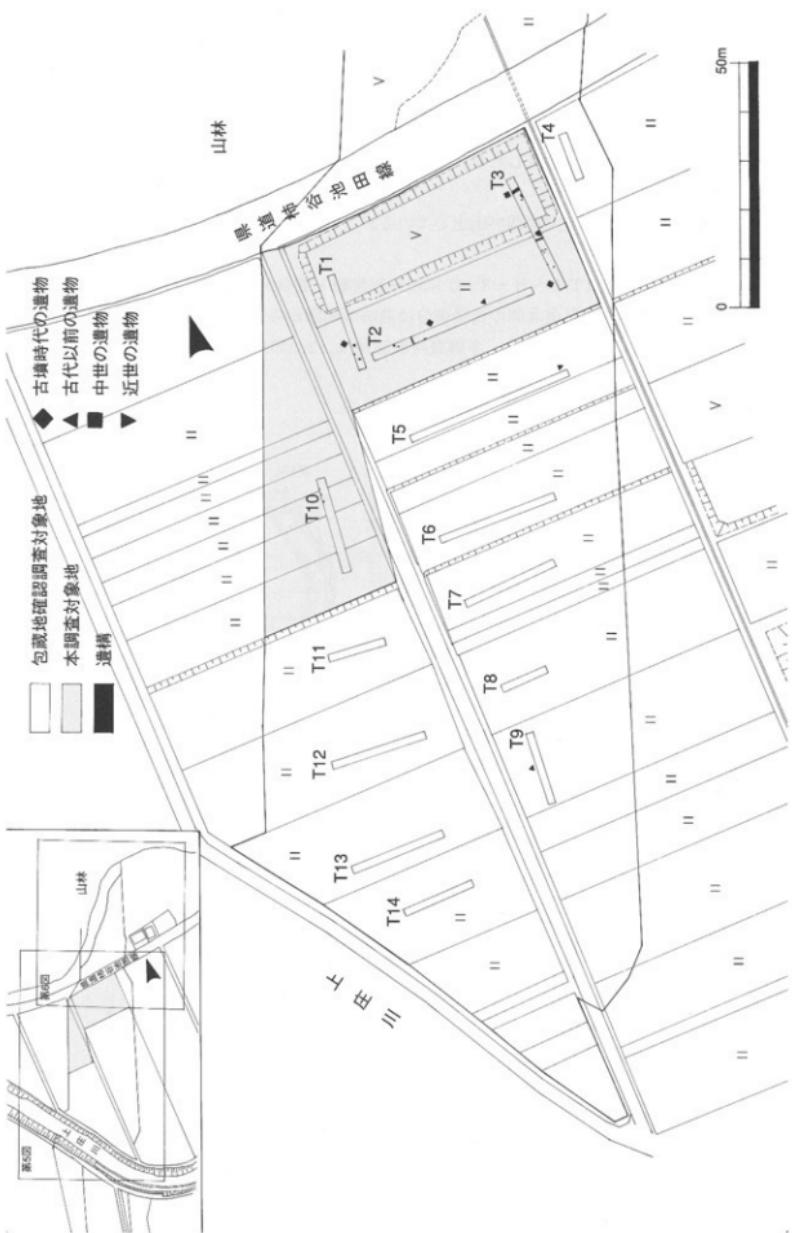
I層	表土	黄灰色シルト
II層	包含層	オリーブ黒色粘土／褐色粘土
III層	遺構検出面	黄褐色粘土

(4) 調査の状況 (第5図、第4表、図版4)

当初、県道柿谷池田線から南を対象地としてT1～14を調査した。T5～9、T11～14は、上庄川へ向かって落ちる谷地形の中に位置し、表土を取り除くと谷の埋土と思われるにぶい黄褐色シルトが厚く堆積していた。T1～3、T10では、遺物包含層と遺構検出面を確認した。T4でも、遺構検出

トレンチ番号	全長(m)	遺構面深度(m)	I層	II層		遺構
T1	20	0.6		土師		穴3
T2	35	0.4		土師		溝1・穴3
T3	25	0.8		土師		溝3(白磁)・穴8・土坑2
T4	10	0.5		—		
T5	35	0.4	伊万			
T6	25	0.9		—	—	
T7	20	0.8		—	—	
T8	10	0.7	近現代陶磁器	—	—	
T9	15	0.3	土師	—	—	
T10	20	0.7				穴3
T11	12	0.3		—	—	
T12	20	0.5		—	—	
T13	20	0.4	近現代陶磁器	—	—	
T14	15	0.3	近現代陶磁器			
T15	35	0.8		—	—	—
T16	30	1.0	土師・須恵	—	—	—
T17	15	0.9		—	—	—
T18	20	1.2		—	—	—

第4表 NEJ-23トレンチ一覧



第5図 NEJ-23トレンチ位置図(1)(1:1,000)

面（地山）は確認したものの、包含層はみられなかった。現況でもT1～3の位置する田面よりも標高が低く、削平を受けているようである。T1～3・T10からは溝・穴・土坑が検出された。出土遺物から遺跡の時期は古墳時代と考えられる。

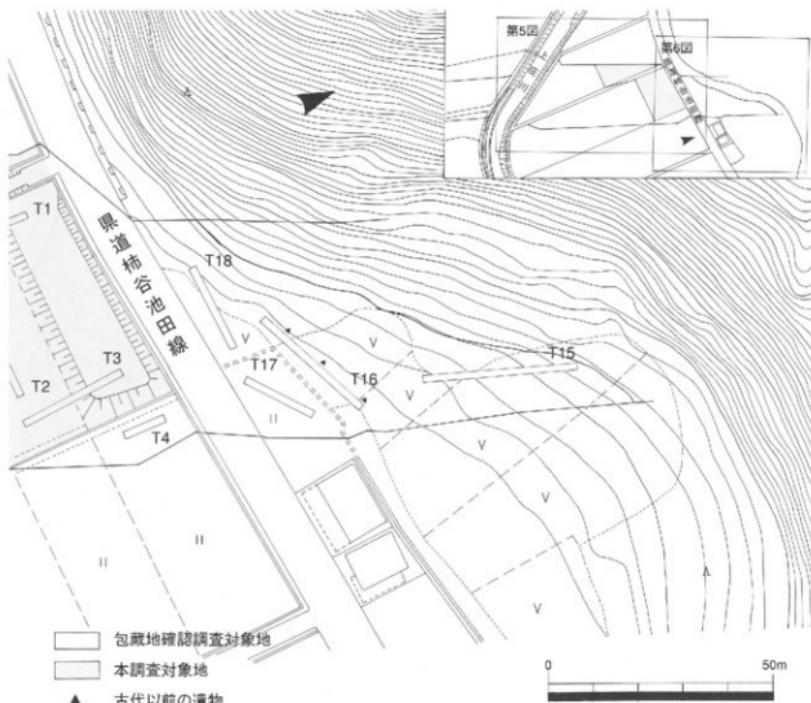
調査対象地の特に北側から遺物・遺構が検出されたことを受けて、調査範囲を北側の丘陵部分にまで延ばした。T15～18を設定し調査したが、包含層・遺構共に確認されなかった。

（5）出土遺物

主にT1・2から古墳時代の土師器が出土しているが、いずれも遺存状況の悪い小破片である。

（6）調査の結果

調査対象地の北側の高台（T1～3・T10）にのみ包含層・遺構が存在している。これより南の谷、削平を受けているT4部分、県道北側の丘陵部分は遺跡の範囲からは除外する。遺跡の名称は、付近の字名から「七分一堂口遺跡」とする。本調査対象面積は、3,370m²である。（野口雅美）



第6図 NEJ-23 トレンチ位置図 (2) (1 : 1,000)

4 NEJ-24 (加納谷内遺跡)

(1) 調査対象地 (図版1)

NEJ-24埋蔵文化財包蔵地は宝達丘陵から派生した丘陵間の沖積平野に位置する。対象地南側は加納中程古墳群、北側は木谷城跡が存在する。現況は水田である。標高は対象地北側では北に向かって高くなる傾斜地となっており、標高5.6~10.2mとなる。南側はほぼ平坦で、標高5.2mを測る。

(2) 調査の方法 (第7・8図)

幅1.6m、長さ20~60mのトレンチ（以下Tとする）を19ヶ所設定し、重機により表土の掘削を、人力で遣構・土層断面を検出した。調査の進展に従って埋蔵文化財包蔵地の推定範囲が北側へ延びることが予想されたため、調査範囲を拡張した。最終的な調査対象面積は25,700m²となった。

(3) 基本層序

I 層	表土	暗灰黄色粘質シルト
II 層	中世遺物包含層	黒褐色砂質シルト・粘土 (20~50cm)
III 層	中世遣構検出面・古墳時代遺物包含層	オリーブ灰色~灰色粘土 (20~60cm)
IV 層	古墳時代遺物包含層	オリーブ黒色~黒色粘質シルト (20~40cm)
V 層	中世・古墳時代遣構検出面	灰オリーブ砂

(4) 調査の状況 (第7・8図、第5表、図版5・6)

調査対象地は対象地は北部 (T 1~6・17~19)・中央部 (T 7~11)・南部 (T 12~16) の3地区に分けられる。当初、T 1より北側は調査対象地外であったが、T 1で遣構・遺物が確認されたため、北側へT 5・17~19を追加し、調査を行った。

北部ではT 3・4・6ではV層、T 2より北側ではIII層にて遣構を検出した。近世以降の溝・谷がT 1・3・4・6で検出される。溝からは伊万里・唐津・越中瀬戸等の近世陶磁器が出土し、珠洲の混入も認められる。中世の土坑・溝は1T以南で比較的多く検出され、T 17以北では主に溝が検出される。溝は南北・東西方向で、何らかの区画溝である可能性が高い。T 18・19では検出された遣構・遺物は少なく、遺跡の縁辺部に当たると思われる。また、T 2以北ではIII層が厚く堆積し、V層は確認できなかった。後述する中央部のIII層を覆土とする遣構の存在から、北部においてもその可能性がある。そのため、判然としないがT 2以北での第2遣構面の存在が想定される。

中央部では東西方向の幅30~35mの谷が確認された。この谷内にIII・IV層が40~100cmの厚みで堆積し、古代以前の遺物が出土する。中世の遣構はこのIII層上面と、その北側はV層上面において検出される。主に東西方向に走る溝があり、土坑は少ない。また、T 7・9の南端では中世の谷が確認さ

トレチ番号	全長(m)	断面深度(m)	I層	II層	III層	IV層	V層	通構
T1	60	0.7	土師・珠洲・越前・伊万・唐津・陶器	土師・珠洲	—	—	—	穴5・溝5
T2	60	1.0	—	—	—	—	—	穴9・溝5
T3	60	0.4	—	珠洲・陶器	—	—	—	穴19・溝7
T4	60	0.7	中土・陶器	—	—	—	—	穴22・溝8
T5	50	0.8	—	—	土師	—	—	穴4・溝6
T6	65	1.2	土師・須恵・越前・陶器	—	—	—	—	穴7・溝6
T7	50	0.4	中土	—	—	—	—	掘文
T8	50	0.8	中土・珠洲	土師	—	—	—	溝5
T9	50	0.8	土師	陶文・土師・中土・珠洲	土師	土師	土師	穴1
T10	50	0.6	土師・須恵・珠洲	—	—	—	—	穴3・溝3
T11	50	0.8	土師・須恵	土師・中土	—	—	—	穴3・溝2
T12	50	0.4	—	陶文・珠洲	—	—	—	溝4
T13	50	0.4	—	陶文・土師・珠洲	—	—	—	穴2・溝1
T14	50	0.5	珠洲・須恵・陶器	中土	—	—	—	穴4・溝1
T15	50	0.3	珠洲	—	—	—	—	穴54・溝8
T16	50	0.5	絆溝	中土・珠洲	—	—	—	穴30・溝3
T17	50	1.2	—	—	—	—	—	穴2・溝6
T18	30	1.3	—	—	—	—	—	穴2・溝2
T19	20	—	—	—	土師	—	—	穴1

第5表 NEJ-24 トレチ一覧

れた。古代以前の遺構については、T11の北側でIV層が覆土となる溝と、谷内の底部でIII層が覆土となる土坑を検出した。谷内のIII・IV層を除去した場合、それらを覆土とする遺構が谷の底面で検出される可能性があり、第2遺構面が想定される。

南部ではIII・IV層は存在せず、V層上面で遺構が検出される。中世の遺構は土坑・溝・谷でT15・16に濃密に分布する。また、T13～16では、北側に低くなる地形を確認しており、南部と中央部と



第7図 NEJ-24 トレーニング位置図 (1) (1 : 1,000)

の間は谷により分断されていたと考えられる。また、近世の溝・谷がT14・15で確認された

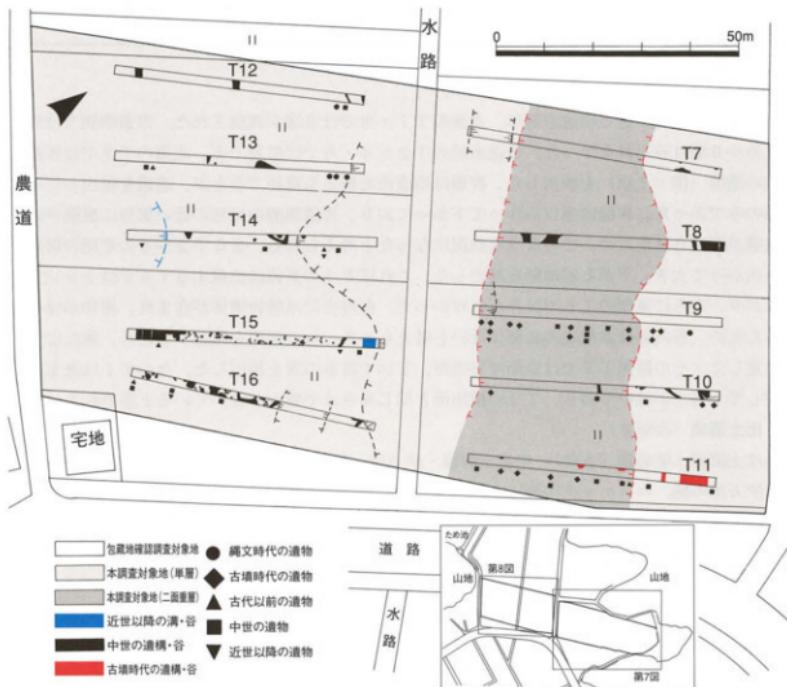
(5) 出土遺物（図版6）

出土遺物は縄文土器・土師器・須恵器・中世土師器・珠洲・越前・白磁・伊万里・唐津・越中瀬戸・木製品（底板）・金属製品（銅錢・鉄滓）・石製品（砥石）がある。縄文土器（1～3：図版中の番号、以下も同様）は中期前半、古墳時代の土師器は前期の壺（5）・中期末～後期の杯（4）が認められる。中世土師器（6）はロクロ成形、珠洲の甕（7）は吉岡編年I期とみられる。珠洲の壺（8）には口縁端部に波状文が施され、吉岡編年のIV期以降と考えられる。近世の遺物は主に調査区北部のT1で出土している。越中瀬戸（9・11・12）、伊万里（13）、唐津（10・14・15）があり、主に17世紀代の遺物が多いが、それ以降のものも出土している。

(6) 調査の結果

今回の調査では各トレンチにおいて遺構を確認した。また、一部2面の遺構面がある。第1遺構面は中世の遺構で、調査区北・南部では近世の遺構も第1遺構面で検出される。第2遺構面は調査区中央部の埋没した谷部分と調査区北部のT2以北に想定され、Ⅲ・Ⅳ層の出土遺物から現時点では古墳時代と推測される。なお、当初の調査対象範囲より北側で遺構が検出されたことから、遺跡の範囲を拡張した。本調査対象面積は25,700m²で、一部に遺構検出面が2面あるため、総面積は36,000m²となる。遺跡の名称は、付近の字名から加納谷内遺跡とする。

（青山 晃）



第8図 NEJ-24トレンチ位置図(2)(1:1,000)

5 N E J-25 (稻積天坂遺跡)

(1) 調査対象地 (図版 1)

N E J-25埋蔵文化財包蔵地は余川川下流右岸の水見市稻積地内に位置し、宝達丘陵から連なる小丘陵の裾野から平野部にかけて立地する。東・西・南側は丘陵に囲まれ、北東側はN E J-28と隣接する。現況は水田・荒蕪地である。標高は南西側の丘陵裾部で8.79mを測り、ここから北東に向かって緩く下がる地形となっており、低いところでは5.77mを測る。さらに隣接するN E J-28へ進むと5.84mとなっており、ここでは若干地形が上がるようである。

(2) 調査の方法 (第9図)

幅1.8m、長さ9~80mのトレンチ（以下Tとする）を10ヶ所に設定した。掘削は重機により表土から地山面または造構面と推定される面まで行い、遺構検出は人力で行った。また部分的に下層の状況確認のため深掘りを行った。調査面積は630m²である。

(3) 基本層序

I 層	耕作土・盛土	灰色粘質土 (40 ~ 60 cm)
II 層	中世遺物包含層	オリーブ黒色粘質土・灰色粘土質ローム (40 cm)
III 層	中世遺構検出面	灰黄色粘質土
IV 層	中世遺構検出面 (地山)	灰色粘質土

(4) 調査の状況 (第9図、第6表、図版7)

調査対象地を東西に通る市道を境に、北側のT 7・8ではII層が確認された。市道南側では削平されたためかII層はみられなかった。市道南側のT 2~4・6ではIII層上面、北側のT 7ではIV層上面で中世の遺構（溝・土坑）を検出した。IV層は市道南北側とも確認できたが、遺構を検出したのは市道北側のみであった。IV層は南に向かって下がっており、市道南側の地形の低い部分にIII層が堆積した後遺構が形成されたため、このような状況になったと考えられる。またT 2~4の北側のIII層上面で北に向かって大きく下がる谷地形を検出した。これはT 4の東側に位置するT 5ではトレンチの全面に広がり、さらに東側のT 6ではみられなかった。谷埋土には植物遺体が含まれ、遺物がほとんどなかったため、谷内部は木調査の必要はないと考えられる。谷の範囲を確認するため、新たにT 9・10を設定した。その結果T 9では全面で谷地形、T 10では谷の肩を検出した。なおT 1は表土から2m掘削しても盛土が続いている、T 2の検出面と同じ高さまで盛土が続いていると思われる。

(5) 出土遺物 (図版8)

遺物は土師器・須恵器（古代）・中世土師器・伊万里・陶器・砥石・キセルが出土した。

1は伊万里の楕。コンニャク印判による染付で、松と団鶴が描かれている。18世紀前半のものである。2・3は中世土師器皿。手捏ね成形で、口縁端部は丸味を持つ。4~7は珠洲。4は片口鉢である。口縁部は注口部分のみが残存する。口縁端部内面は面をなし、櫛目波状文をめぐらす。鉢目は先端が鈍い工具で密に施される。5~7は甕。口縁部が残存するのは5のみである。4・5は吉岡編年のV期に相当する。8は砥石。表面と右側面に使用痕がある。溝から珠洲と共に出土しており、中世のものと思われる。写真に掲載していないが、キセルは耕作土から出土した。なお、古代のもの

と思われる土師器は小片であった。

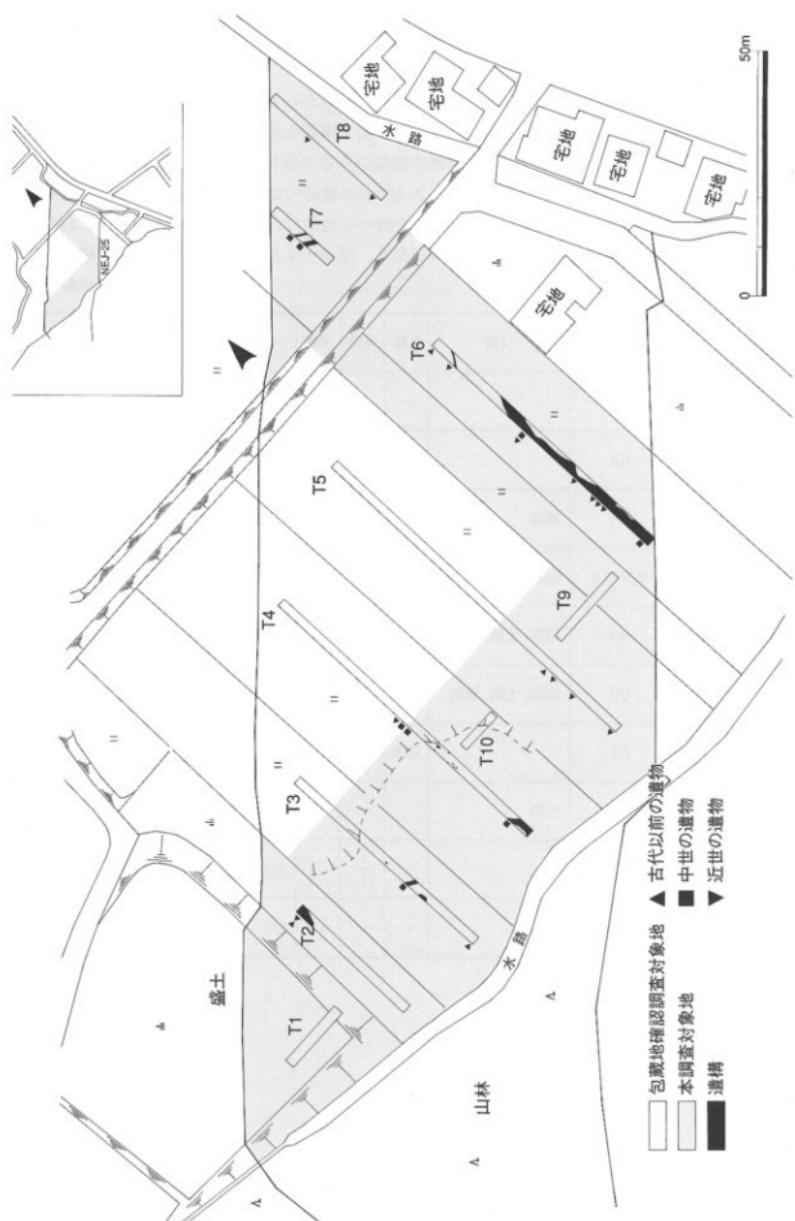
(6) 調査の結果

調査対象地のうち、市道南側では遺物包含層が確認されなかったが、市道北側では遺物包含層が確認された。そして市道南側ではⅢ層、市道北側ではⅣ層で遺構を確認した。また市道南側のT 3・4・10の一部とT 5には谷が含まれ、調査対象地の南端から谷の肩付近まで遺構・遺物が確認された。谷部分は市道から60mの範囲で広がっており、3,490m²が遺跡の範囲外と思われる。本調査対象面積は6,310m²である。今回調査対象外であったT 6 東側の宅地部分はNE J-28と隣接しており、確認調査を行った上で本調査について判断する必要がある。遺跡の名称は付近の字名から福積天坂遺跡とする。

(中野由紀子)

トレンチ番号	全長(m)	遺構面深度(m)	I層	II層	III層	IV層	遺構
T1	15			—	—	—	
T2	30	0.4		—		—	溝21(須恵・伊万)
T3	50	0.4	磁器	—		—	谷1、溝1(珠洲・砾石)、土坑2、穴1
T4	70	0.3~0.4	磁器	—		—	谷1(珠洲・土師)、溝1(珠洲)、土坑2、穴5
T5	80	0.4	磁器、土師、キセル	—	—	—	谷1(土師)
T6	60	0.7	珠洲、土師、陶器	—	—		谷1(珠洲) 溝2(土師)
T7	15	0.7		珠洲	—		溝2
T8	30		土師		—		
T9	17	0.4		—	—		谷1
T10	9	0.5		—	—	—	谷1

第6表 NEJ-25 トレンチ一覧



第9図 NEJ-25 トレンチ位置図 (1:1,000)

6 NEJ-27 (宇波西遺跡)

(1) 調査対象地 (図版2)

NEJ-27埋蔵文化財包蔵地は南を宇波川、北を宝達丘陵から派生した小丘陵に挟まれた平野部の北側に位置する。北側の小丘陵には熊野神社古墳群が存在し、西側には宇波西遺跡が隣接している。現況は、水田・畑地である。標高は、宇波西遺跡と北側の丘陵に挟まれた水田部で約19.4m、南端の水田部で約13.7mを測る。調査区は、北の丘陵裾部分から南の平地に向かって傾斜する地形である。

(2) 調査の方法 (第10図)

幅1.6m、長さ5~80mのトレンチ（以下Tとする）を対象地に14ヶ所設定し、重機により表上の掘削を行い、人力で遺構及び土層断面の検出を行った。ただし調査対象地南側のT4・T5に遺構・遺物が検出できなかったため、最南部に位置するT6は欠番とした。

当初の調査対象面積は9,600m²であったが、調査の進展に従って遺跡の範囲が北へ延びることが予想された。そのため北側丘陵へ向かって調査範囲を9,000m²拡張した。調査面積は864m²である。

(3) 基本層序

I 層	表土・盛土	灰黄褐色粘質土・黄褐色粘土など (0.3~3.1m)
II 層	古代以前・中世遺物包含層	黒褐色／オリーブ黒色粘土 (0~1.0m)
III 層	遺構検出面	灰オリーブ色粘土

(4) 調査の状況 (第10図、第7表、図版9)

T1~3とT8~14で遺物包含層・遺構検出面が認められた。T4・7以南は土壤改良を行ったためか、耕作土・盛土より下は砂利層であり、遺物包含層・遺構検出面の遺存は認められなかつた。遺構検出面は地表下0.5~3.8mで確認したが、T11~14では盛土が深く堆積し、重機による深堀りを行つた所でのみ検出面を確認した。検出した主な遺構は穴と溝である。遺構の時期は、出土遺物から古代を中心とした時期とみられる。

(5) 出土遺物 (図版8)

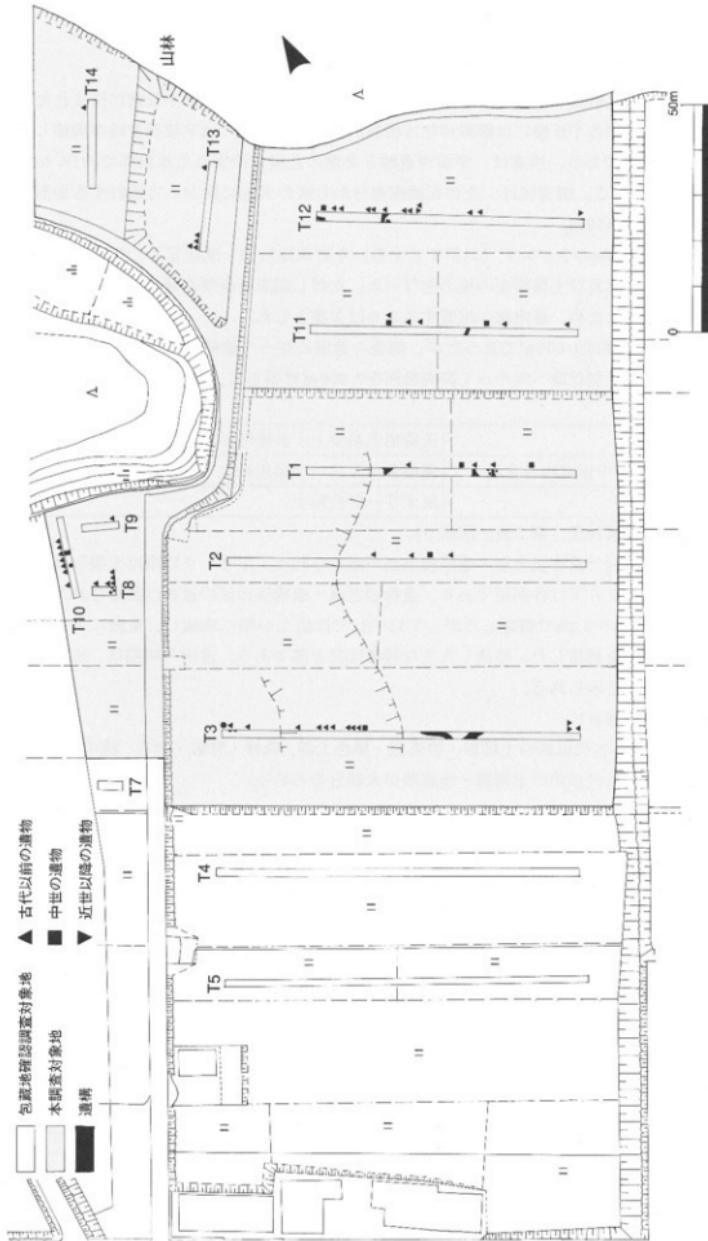
遺物は、縄文土器・古代以前の土師器・須恵器・黒色土器・珠洲・青磁・青花・越中瀬戸・伊万里・漆器などが出土し、古代以前の土師器・須恵器が大部分を占める。

(6) 調査の結果

T1~3、T8~14の調査結果から、調査区北端からT3・T8の南側まで遺物包含層・遺構検出面が広がることが確認されたため、T4・T7の北側から丘陵裾部までを本調査の範囲とした。この結果、本調査対象面積は15,550m²となる。ただ前述通り、当調査区は宇波西遺跡の東側に隣接しており、同遺跡の一部であると考えられる。従つて、遺跡名は「宇波西遺跡」とする。（朝田 要）

トレンチ番号	全長(m)	遺構面深度(m)	I層	II層	III層	遺構
T1	60	0.8		土師・珠洲		溝3(須恵)・穴
T2	80	0.7	土師・須恵・珠洲			—
T3	80	1.1	縄文・土師・胎糞	土師・漆器		溝1・穴2(土師)・落ち込み(土師・越中瀬戸)
T4	80	—				—
T5	80	—				—
T6						*欠番
T7	5	—		—		—
T8	5	1.6		土師・須恵		穴3
T9	18	1.4		土師・須恵		溝1・穴1
T10	8	1.3		土師		—
T11	60	1.4	珠洲	土師・須恵		落ち込み?
T12	60	2.4	青花	土師・須恵・伊万里		溝・穴
T13	20	2.6	土師	土師・内黒		
T14	20	3.8	土師	青磁		

第7表 NEJ-27トレンチ一覧



第10図 NEJ-27 トレンチ位置図 (1 : 1,000)

7 N E J - 29

(1) 調査対象地 (図版2)

N E J - 29は、宇波川左岸に広がる丘陵によって東西をはさまれた谷間に位置する。標高は約16～21mを測り、宇波川へ向けて南に徐々に下がる地形となっている。現況は田地である。近辺には熊野神社古墳群・宇波安居寺古墳群や弥生～中世遺物散布地として周知された宇波西遺跡が分布している。

(2) 調査の方法 (第11図)

幅約1.8m・長さ約6～80mのトレンチ（以下Tとする）を9箇所設定し、重機により掘削を行い、人力で遺構及び土層断面の検出を行った。調査対象面積は13,000m²、調査面積は約675m²である。

(3) 基本層序

I 层	現耕作土	灰色粘質土など
II a層	谷埋土上層	黄灰色粘質土
II b層	旧河川埋土	オリーブ黒色粘土質ロームなど
II c層	谷埋土下層	オリーブ灰色粘質土
III 層	地山	明黄褐色粘土質ローム（岩盤）

(4) 調査の状況 (第11図、第8表、図版9)

T 1は、東の丘陵側で層厚約0.2mのI層直下で地山（III層）に至ったが、トレンチ中程で南東へと下がって行く谷を検出した。T 2は全面が谷埋土（II a・II c層）で占められ、一部1.8mの深掘りをかけたが底は確認できなかった。T 3では西の丘陵側で谷の肩があり、III層を確認したものの大部分は谷埋土であった。T 4・5も同じく大部分を谷埋土で占めるが、西側において谷下層（II c層）の堆積後に侵食した旧河川（II b層）を検出した。T 6～T 9は耕作による削平を多く受けしており、II層がほとんどなく大部分がI層直下地山であったが、T 6西側ではT 4から続くと思われる旧河川を検出し、T 9においても、肩部は検出しなかったがI層直下に旧河川と思われる堆積がみられた。谷埋土及び旧河川からは土師器が出土したものの、いずれも小破片で数点にとどまった。その他、いずれのトレンチにおいても遺構は認められなかった。

(5) 出土遺物

図化や写真による記録は行っていないが、I・II層から越中瀬戸・土師器・縄文土器が少量出土している。いずれも小破片であった。

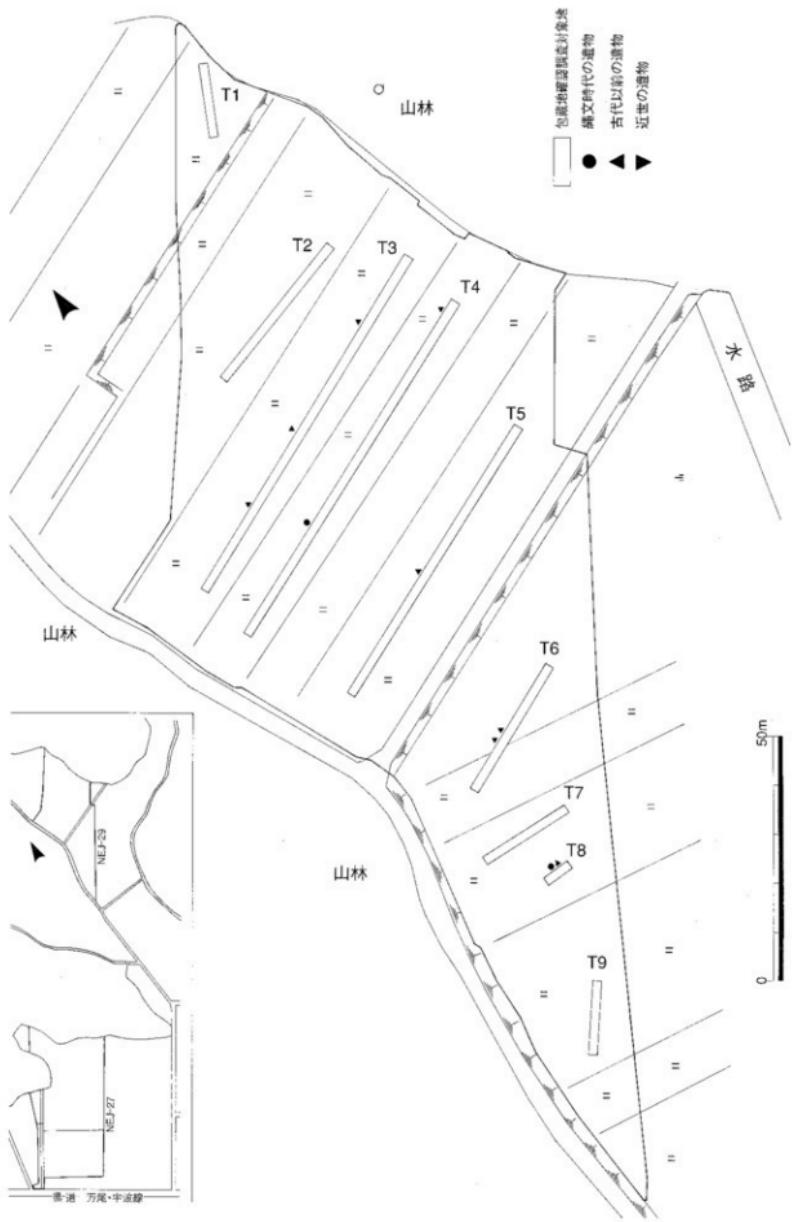
(6) 調査の結果

N E J - 29埋蔵文化財包蔵地は、平成15年度の分布調査で古代散布地とされているが、今回の調査では遺跡は確認できなかった。

(藤木信幸)

トレンチ番号	全長(m)	掘削深度(m)	I層	II層	III層	遺構
T1	15	1.2				
T2	35	1.8			—	
T3	80	1.4		越瀬・土師		
T4	80	1.6		縄文・土師	—	
T5	65	1.4		土師	—	
T6	30	0.8		土師		
T7	20	0.8	土師	—		
T8	6	0.8	縄文・土師	—		
T9	15	1.1				

第8表 NEJ - 29トレンチ一覧



第11図 NEJ-29 トレチ位置図 (1:1,000)

IV 小 結

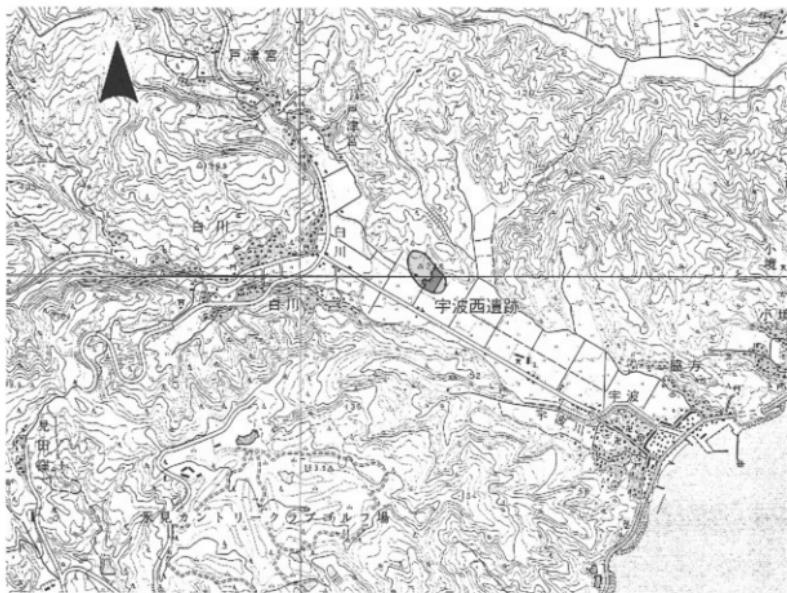
平成 16 年度に行った 1 ヶ所の埋蔵文化財包蔵推定地調査と 6 ヶ所の埋蔵文化財包蔵地調査の結果は、次の通りである。

- 中尾埋蔵文化財泡蔵推定地は遺構・遺物とも確認されなかつたため、本調査を必要としない。
 - NE J-22 の調査対象地南側では主に古代の遺構・遺物が確認され、大野中遺跡とした。さらに南側に遺跡の範囲が広がる可能性がある。遺跡の範囲は未確定で、現時点での本調査対象面積は 1,530 m²である。
 - NE J-23 は調査対象地北側の丘陵裾部と南側の上庄川へと落ちる谷地形が確認され、それ以外の範囲では、主に古墳時代の遺構・遺物が確認され、七分一堂口遺跡とした。本調査対象面積は 3,370 m²である。
 - NE J-24 は、第1遺構面では中世・古墳時代の遺構、第2遺構面では古墳時代の遺構が検出され、加納谷内遺跡とした。調査区の一部では近世の遺構も第1遺構面で検出される。第2遺構面については、調査区中央部の古代以前に埋没した谷状地形部分のみに認められる。なお、当初の調査対象範囲より北側で遺構が検出されたことから、遺跡の範囲を拡張した。本調査対象面積は 25,700 m²で、一部に遺構検出面が 2 面あるため、総面積は延 36,000 m²となる。
 - NE J-25 は、中世の遺構・遺物が確認され、稻積大坂遺跡とした。本調査対象面積は 6,310 m²となる。
 - NE J-27 は、調査対象地内では、西側に隣接する周知の遺跡である宇波西遺跡に近い範囲で、主に古代の遺構・遺物が確認された。宇波西遺跡の広がりと考えられ、同遺跡に統合される。本調査対象面積は 15,930 m²となる。
 - NE J-29 は、調査対象地において遺構は確認されず、遺物も僅かであることから、本調査を必要としない。

(青山 晃)

包囲地名	対象面積 (m ²)	調査面積 (m ²)	遺跡の有無	本調査対象面積 (m ²)	主な構造	主な遺物
中尾城藏文化財包蔵推定地	16,200	109	無	—	—	
NEJ-22(大野中遺跡)	1,800	184	有	1,530	土坑	土器類・須恵器・越中瀬戸・銅錢
NEJ-23(七分一堂口遺跡)	12,470	630	有	3,270	土坑・溝	土器類・須恵器・白磁・伊万里
NEJ-24(加納谷内遺跡)	25,700	1,496	有	36,000	土坑・溝	縄文土器・土器類・須恵器・中世土師器・珠瀬・伊万里・唐津・越中瀬戸・銅錢・砾石
NEJ-25(鶴積天板遺跡)	9,800	630	有	6,310	土坑・溝	土器類・須恵器・珠瀬・南朝器・錫管・砾石
NEJ-27(宇波西遺跡)	18,600	864	有	15,930	土坑・溝	縄文土器・土器類・須恵器・珠瀬・青磁・伊万里・越中瀬戸・漆器
NEJ-29	13,000	675	無	—	—	
合計	97,570	4,588		63,140		

第9表 平成16年度埋蔵文化財包蔵地調査結果一覧



遺跡の範囲

本調査対象範囲



第12図 今回の調査により新たに確認された遺跡の位置 (1:25,000)

引用・参考文献

- 大川清 他 1996 『日本土器事典』 雄山閣
- 大橋康二 1988 『別冊太陽 古伊万里』 平凡社
- 国土地理院 1998 『1 : 25,000 地形図 氷見』
- 1995 『1 : 25,000 地形図 能登二宮』
- 1986 『1 : 25,000 地形図 蛭ヶ島』
- 1996 『1 : 50,000 地形図 氷見』
- 1997 『1 : 50,000 地形図 石動』
- 財団法人富山県文化振興財団 1999 『能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地調査報告 N E J -10・N
埋蔵文化財調査事務所 E J -11』
- 2002 『能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告 N E J -13
N E J -14 N E J -20 N E J -21 中尾坊田遺跡 中尾新
保谷内遺跡』
- 2003 『能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地調査報告 N E J -15 (惣
領野瀬遺跡) N E J -16 (惣領浦之前遺跡) N E J -17 N
E J -18 正保寺遺跡 栗原A遺跡 中谷内遺跡 中谷内遺跡
中尾横穴墓群 中尾茅戸遺跡』
- 2003 『埋蔵文化財調査概要—平成14年度—』
- 2004 『能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地調査報告 N E J -19 (上
久津呂中屋遺跡 板屋谷内B古墳群 板屋谷内C古墳群)』
- 2004 『埋蔵文化財調査概要—平成15年度—』
- 竹内理三 他 1979 『角川日本地名辞典 16 富山県』 角川書店
- 戸沢充則 編 1994 『縄文時代研究事典』 東京堂出版
- 富山県埋蔵文化財センター 2000 『富山県埋蔵文化財包蔵地図』 平成12年加筆訂正
- 氷見市史編さん委員会 2002 『氷見市史 7 資料編五 考古』
- 1999 『氷見市史 9 資料編七 自然環境』
- 吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館



(1963年撮影)



図版 1 NEJ-22・23・24・25 航空写真

(2003年撮影)

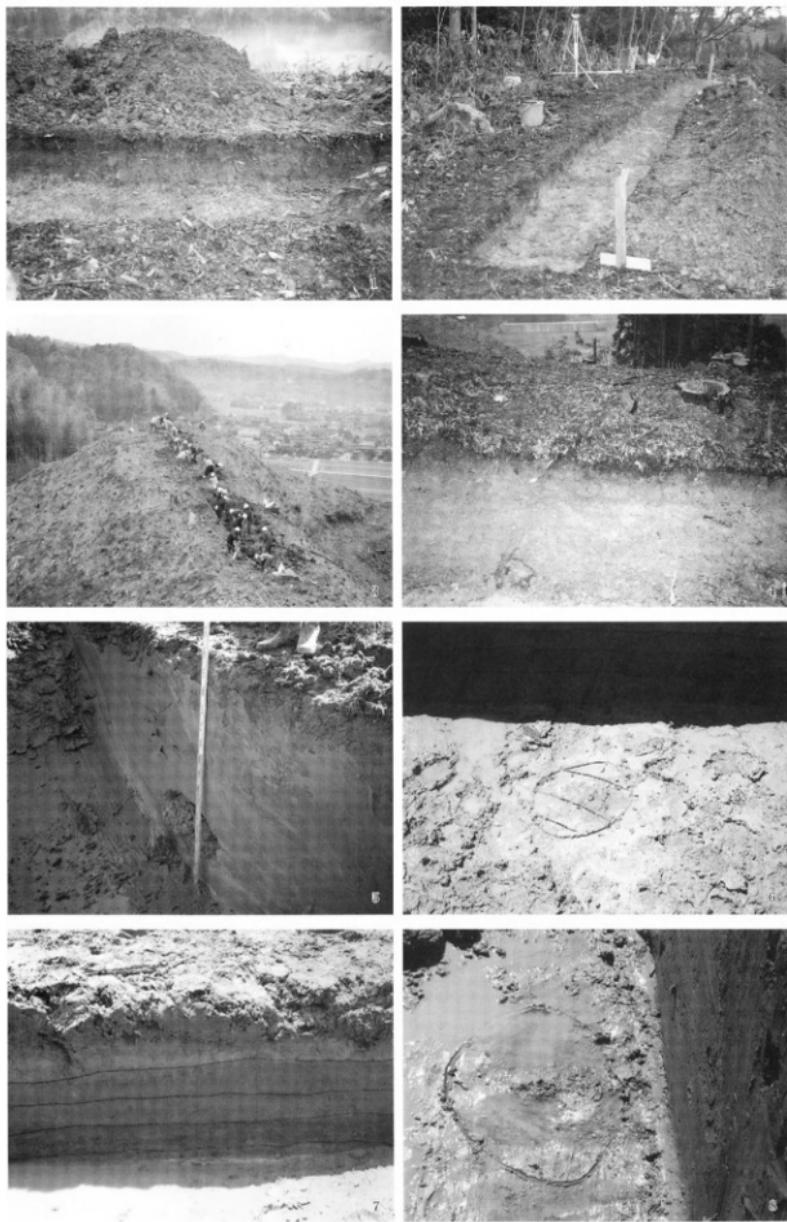


(1963年撮影)

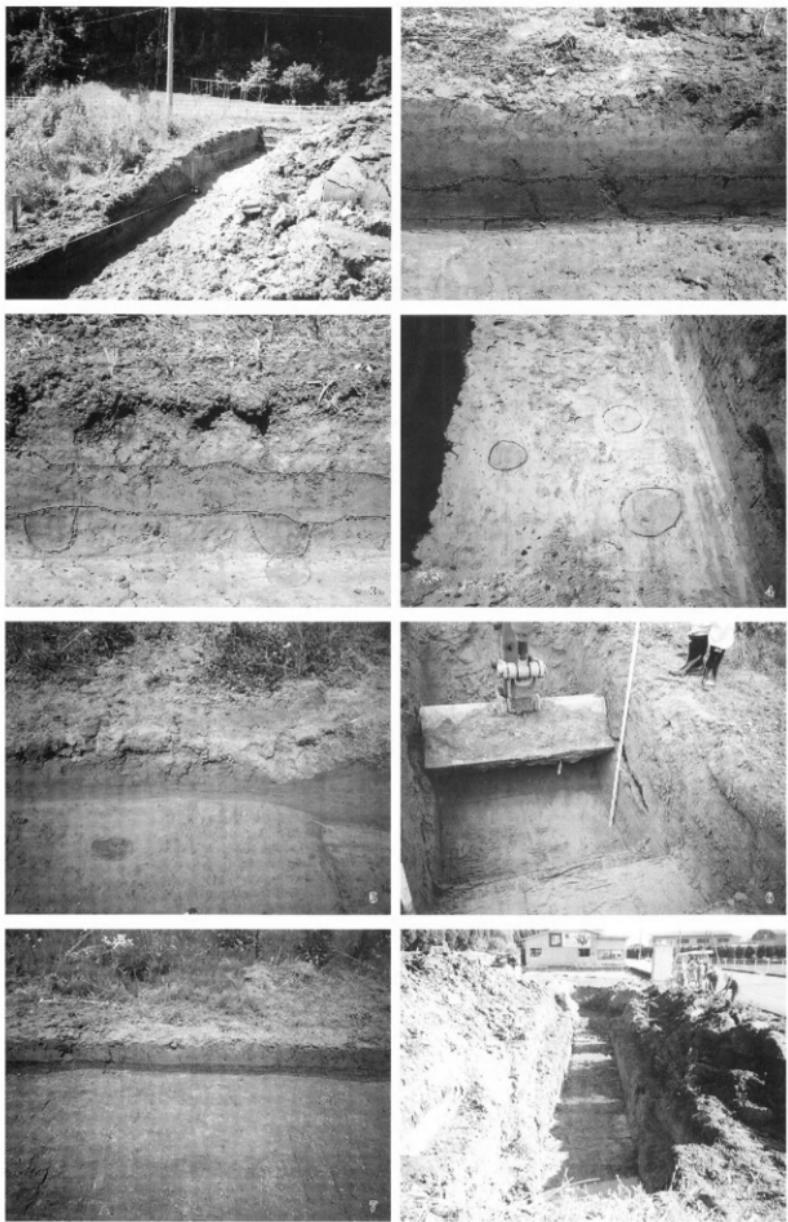


図版2 NEJ-27・29 航空写真

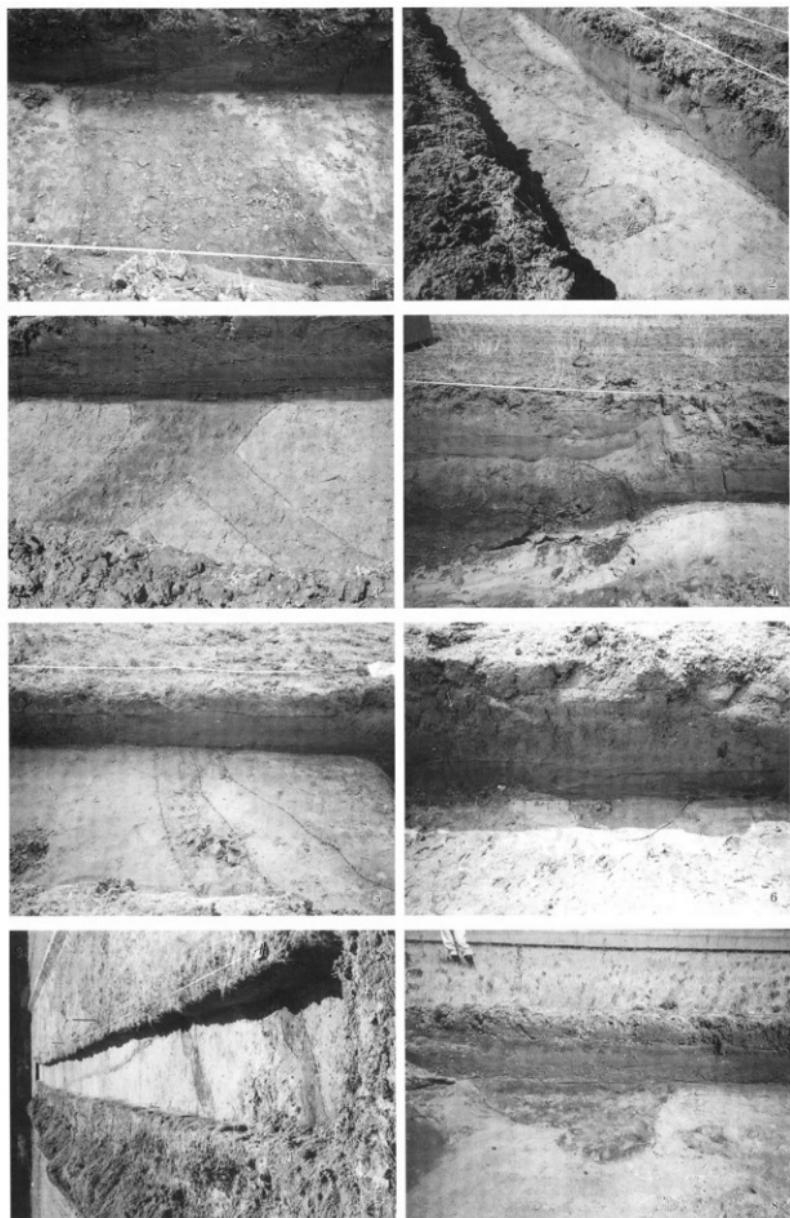
(2003年撮影)



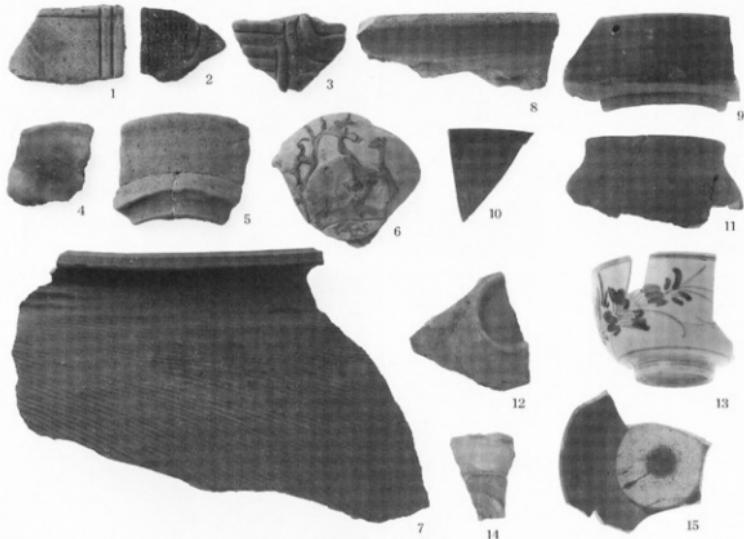
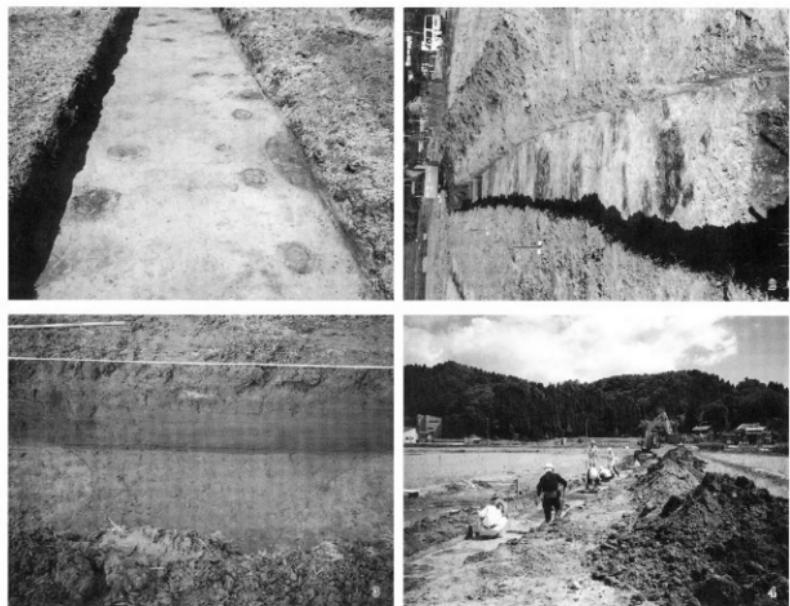
図版3 中尾埋蔵文化財包藏推定地
NEJ-22 1. T1土層 2. T1全景 3. T4作業風景 4. T6土層
5. T1土層 6. T5遺構 7. T4土層 8. T4遺構



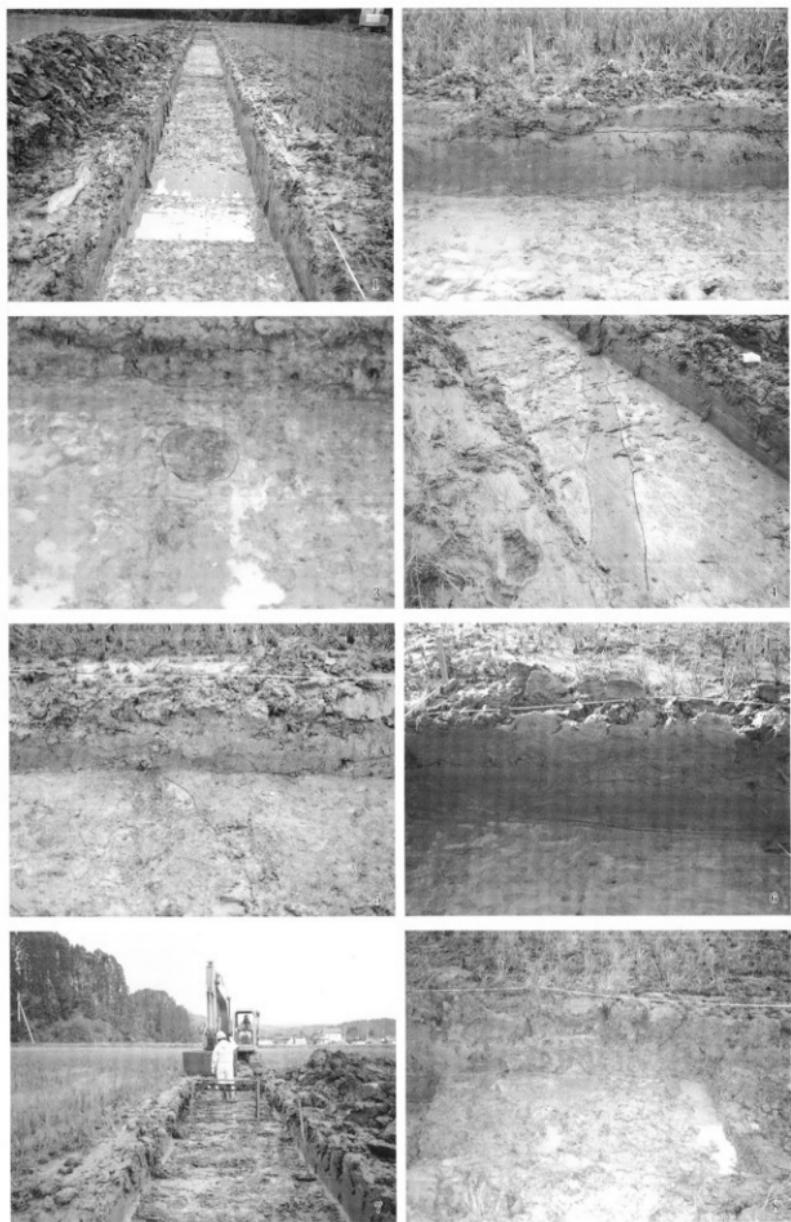
図版4 NEJ-23 1.T1全景 2.T2土層 3.T3土層 4.T3遺構 5.T10遺構 6.T12土層 7.T13土層 8.T18全景



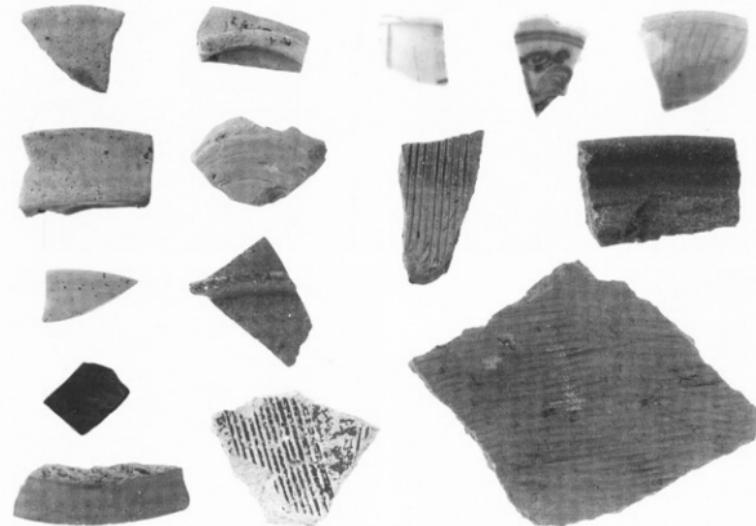
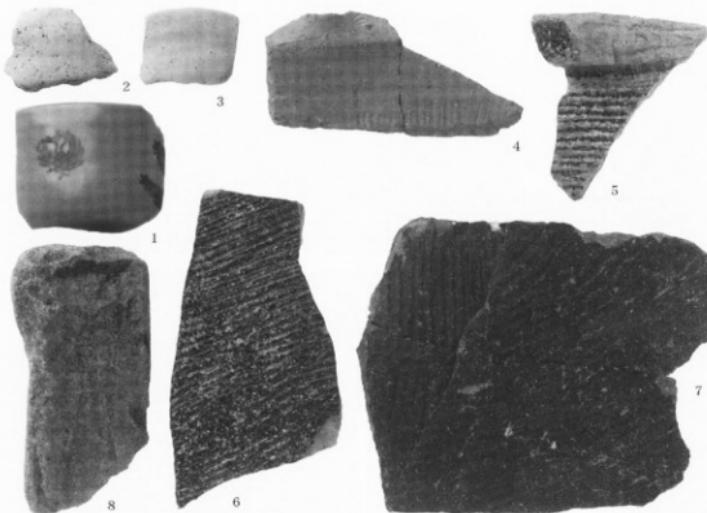
図版 5 NEJ-24 1. T1遺構 2. T3遺構 3. T5遺構 4. T8遺構 5. T10遺構 6. T11遺構 7. T12全景 8. T14遺構



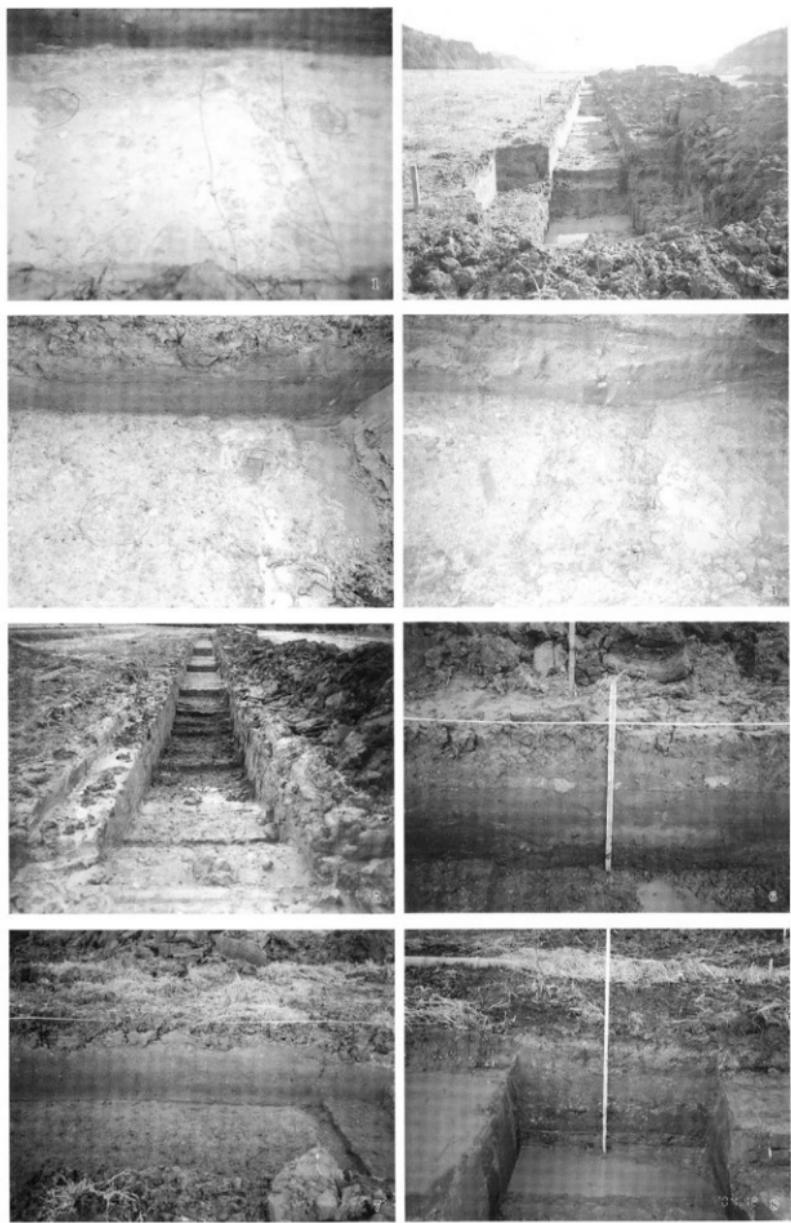
図版6 上2段：NEJ-24 1.T15遺構 2.T16全景 3.T17土層 4.T11作業風景
下段：NEJ-24 出土遺物



図版 7 NEJ-25 1. T3全景 2. T3造構 3. T3谷肩部検出状況 4. T4作業風景 5. T6土層
6. T6造構 7. T7土層 8. T10谷肩部検出状況



图版 8 上段：NEJ-25 出土遗物
下段：NEJ-27 出土遗物



図版9 上2段：NEJ-27 1.T1遺構 2.T3遺構 3.T8遺構 4.T9遺構
下2段：NEJ-29 5.T3全景 6.T4全景 7.T8土層 8.T9土層

報告書抄録

ふりがな	のうえじどうしゃどうかんれんmaiぞうぶんかざいほうぞうちょうさほうこく						
書名	能越自動車道間埋蔵文化財包蔵地調査報告						
シリーズ名	中尾埋蔵文化財包蔵推定地 NEJ-22(大野中遺跡) NEJ-23(七分一堂口遺跡) NEJ-24(加納谷内遺跡) NEJ-25(福積天坂遺跡) NEJ-27(宇波西遺跡) NEJ-29						
シリーズ番号	富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所発掘調査報告 第28集						
編著者名	青山 兄						
編集機関	財團法人富山県文化振興財團 埋蔵文化財調査事務所						
所在地	〒930-0887 富山県富山市五福4384番1号 TEL076-442-4229						
発行年月日	西暦2005年3月31日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				
中尾埋蔵文化財 包蔵推定地	ひらし 氷見市 なか 尾	16205	36° 56' 56"	136° 56' 57"	20041118 ~ 20041119	109 (対象16,200)	能越自動車道建設に伴う 包蔵地確認調査
N E J - 2 2	ひらし 氷見市 おお の 大 野	16205	36° 51' 45"	136° 57' 27"	20040525 ~ 20040526	184 (対象1,800)	能越自動車道建設に伴う 包蔵地確認調査
N E J - 2 3	ひらし 氷見市 しもいち 七分一	16205	36° 51' 53"	136° 57' 30"	20040527 ~ 20040601 20041209 ~ 20041210	630 (対象12,470)	能越自動車道建設に伴う 包蔵地確認調査
N E J - 2 4	ひらし 氷見市 か り 納	16205	36° 52' 11"	136° 57' 45"	20040525 ~ 20040604	1,496 (対象25,700)	能越自動車道建設に伴う 包蔵地確認調査
N E J - 2 5	ひらし 氷見市 い な づ ま 福 積	16205	36° 52' 29"	136° 58' 4"	20041206 ~ 20041209	630 (対象9,800)	能越自動車道建設に伴う 包蔵地確認調査
N E J - 2 7	ひらし 氷見市 う な 波	16205	36° 55' 11"	137° 0' 18"	20041129 ~ 20041208	864 (対象18,600)	能越自動車道建設に伴う 包蔵地確認調査
N E J - 2 9	ひらし 氷見市 う な 波	16205	36° 55' 23"	137° 0' 28"	20041129 ~ 20041203	675 (対象13,000)	能越自動車道建設に伴う 包蔵地確認調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中尾埋蔵文化財 包蔵推定地	—	—	無し	無し	調査範囲内では遺構、遺物は確認されなかった。
N E J - 2 2	集落	古代	土坑	土師器・須恵器・越中瀬戸・銅鏡	おおのなかせき 大野中遺跡とする。
N E J - 2 3	集落	古墳時代	土坑・溝	土師器・須恵器・白磁・伊万里	しもいちせき 七分一堂口遺跡とする。
N E J - 2 4	集落	古墳時代・ 中世	土坑・溝	繩文土器・土師器・須恵器・中世土 器・珠洲・伊万里・唐津・越中瀬戸・銅鏡・砥石	かのうやちせき 加納谷内遺跡とする。
N E J - 2 5	集落	中世	土坑・溝	土師器・須恵器・珠洲・煙管・砥石	いなごみやちせき 福積天坂遺跡とする。
N E J - 2 7	集落	古代	土坑・溝	繩文土器・土師器・須恵器・珠洲・青 磁・伊万里・越中瀬戸・漆器	うなみじせい 宇波西遺跡に統合する。
N E J - 2 9	—	—	無し	無し	調査範囲内では遺構、遺物は確認されなかった。

富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第28集
能越自動車道関連埋蔵文化財包蔵地調査報告

～中尾埋蔵文化財包蔵推定地 NE J-22（大野中遺跡）NE J-23（七分
堂口遺跡）NE J-24（加納谷内遺跡）NE J-25（稲穂天板遺跡）
NE J-27（宇波西遺跡）NE J-29～

編集・発行 財団法人富山県文化振興財団
埋蔵文化財調査事務所
〒930-0887 富山市五福4384番1号
Tel 076-442-4229
発行日 2005（平成17）年3月31日
印 刷 ヨシダ印刷（株）